

# 群馬県立館林高等学校 同窓会会報

## 特集 館高東京同窓会が

### 創立25周年記念式典

東京同窓会は東京とその近郊に在住するOBたちにより、昭和56年に創立された。以後会員の強いスクラムで着々と発展し25年の歴史を刻んでいった。そして平成18年10月21日、創立25周年記念式典並びに記念パーティーが、上野精養軒で行われた。集まった約120人のOBたちは四半世紀の歴史や活動を振り返りながら旧交を温めあった。



群馬県立館林高等学校東京同窓会  
第25回総会及び創立25周年記念式典

#### 創立から現在まで

母校館林高校創立六十周年を記念して、東京同窓会は昭和56年11月27日に、新宿の東京大飯店に150名程が集い、近藤勝三郎会長を推挙してスタートした。とはいえ、このスタートまでには並々ならぬ苦労があったという。その年の春に野木村浩校長、広沢純孝同窓会長から設立をすすめられ、それから世話人の呼びかけをし、7月に世話人会、それから名簿作り、発起人依頼、会則案作り等を行い、10月24日設立発起人会開催。設立総会案内状を805通発送し、374通返答あり。そして総会にごぞつたという。

その後、橋爪平八郎会長、渡辺

益男会長、鈴木敏男会長とバトンタッチし交流を深めていった。

現在は鈴木敏男会長体制で、春には上野で親睦会、夏には屋形船を楽しむ納涼会、秋には定期総会、年数回の親睦ゴルフ大会、そして県内の前橋高、高崎高、渋川女子高の東京同窓会との交流会など、活動の輪を広げている。

#### 盛会になった式典



鈴木敏男会長 ご挨拶

当日は岩瀬弥市同窓会長や伊藤収校長、宮田澄江館女高同窓会長らが館林から駆けつけ、日頃から交流のある前橋高や渋川女子高の東京同窓会役員らも顔をみせ花を添えた。まず第25回総会で議案の審議をした。記念式典は会長の挨拶に始まり、多くの方々からご祝辞をいただき、活動の広さと歴史の重みを感じさせるものとなった。

#### 記念講演

OBである元農水相の谷津義男衆院議員が「これからの政局と展望」と題して講演。昨年の郵政解散時の裏話や今後の展望など語った。

#### 記念パーティー



アトラクションとして、郷里館林から六郷八木節会(山田秀夫会長、19人)が駆けつけ、定番の国定忠治の八木節の外に、館林パーティー八木節も披露。OBたちはしばらく離れた郷里に思いを馳せ懐かしんだ。その後は、高校時代の思い出や第一線で活躍した時代のこと、そして第二の人生の楽しさなどを語り合い、時間の過ぎるのも忘れるほどに興じた。

最後に、出席者全員で思い出の校歌を声高らかに合唱して、満たされた心で再会を約し会場を後にした。

#### 絆を増した25周年

鈴木敏男実行委員長は、「『多少の金持ちになるより人持ちになれ』の願いのもとに東京同窓会は25周年を経た。会員同士の交流・結束はいよいよ強固なものとなったと思う。これからは、他高校東京同窓会との交流・出会いも頻繁になり、関連の財・官・産・学界の人々との接触・付き合いも多くなっていくだろう。」と今後を展望している。

#### 記念誌発行

館林中学・高校を卒業後、郷里を離れ、東京及びその近郊で活躍しているOB会員の足跡や時代時代の思い出などを綴った「二十五年誌」が発行された。A5版523頁に及ぶもので戦後の人間模様が見える。入手したい方は次の要領で。

#### 申込先

〒102-10074 東京都千代田区九段南3-13-12-1103  
(有)五月印刷 館高東京同窓会創立25周年記念誌編集委員会

#### 頒布実費

3,500円(送料共)・お支払い後は払いとし、記念誌送付時に同封の郵便振替払込用紙のご利用を。



群馬県立館林高等学校東京同窓会  
創立25周年記念パーティー



母校の歴史を大切に

あいさつ

同窓生の皆様には、それぞれの地域で、各分野においてお元気で活躍のことと存じ心から感謝とお礼申し上げます。同窓会報もお同様で第九号を発行することとなり編集委員の皆様を始めご支援をいただいております。皆様様に厚くお礼を申し上げます。私達が学んだ母校館林高校も歴史と伝統を大切に守り、文武両道に励みながら力強く歩み続けており後四年で創立九十周年を迎えることになりました。今後とも同窓生皆様の



同窓会長 岩瀬 弥市

あたたいご支援ご協力を心からお願い申し上げます。今の時代は、子供たちが育っている環境に問題があると思います。今の日本の社会では、ハングリー精神

家の仕事を手伝ったり心身をきたえておられます。日本ではその環境を大人がつぶして子供も達の知恵や人格形成や生きる力を失わせた現在の姿について大人が反省し大人としてあるべき姿を考へる時だと思えます。母校におかれても先生方と生徒が一体となって天下に誇る立派な高校に成長して欲しいと思えます。同窓会も会員同志がより絆をつよく助け合い、励まし合ってきびしい時代を乗り越えていって欲しいと心からお願ひ申し上げます。最後にになりましたが同窓生皆様の健康とこれからの活躍をご祈念申し上げます。第九号発行に当り挨拶とさせていただきます。

あいさつ

今年度の館高は！

十八年度末進学実績は館高ニュースに書かれているように国公立に六十五名の生徒が合格しました。早稲田四名、明治十四名、法政十五名、中央九名など有名私大にも多くの生徒が合格しております。進学決定率も九十四％となり三年連続九割をこえています。同窓会員の皆様には、日頃より母校館林高校に熱いまなざしやお心遣いいただき誠にありがとうございますとさせていただきます。

平成十九年度の現況を報告すると高校総体総合成績で九位になりました。今年の夏のインターハイ出場はポート部、レスリング部、水泳部が佐賀県の大会に出場します。ポートの栗原誠和君が全日本ジュニア優勝、全日本選手権三位と活躍し、中国で行われる世



校長 伊藤 敬

界ジュニア選手権大会に出場します。北京オリンピック大会の後のロンドン大会には日本代表選手として期待されております。文化部でも新聞部に加え音楽部が演劇代表選手として東京の大会に出場しています。また、全国短歌コンクールに本県を代表して数名が岩手県で

開催される大会に出場します。運動部に加えて文化部も活躍が期待されます。三年に一度の大成祭の年ですが七月七日(土)、八日(日)と二日間開催されましたが、二日間で二千四百名の参加がありました。PTAの方々と並び同窓会会員の方も多数お見えになりました。安楽園館林市長さんもお見え

OBが学校へ

万葉植物園訪問

卒業後六十五年記念同窓会 (旧制十七期)



私達、旧制十七回の級友は、いづれも大正末の生まれで、今は八十二、三才になる。「大正も遠くなりけり」とか、同級生九十二名の中、三分の二は、既に世を去り、残り三十二名も、一病ならず、二病三病に、日々悩まされて居る時々です。そんな中で、年初一部の旧友から「卒業後六十五年同窓会をやるう。皆に会い度い」との声がかかった。

そして、万葉植物園の、十七回卒業記念植物「横の木」の見事な成長ぶりを眺め、何かホッとした様な安らぎを覚えました。又、昔の通学路は、小松林続きで、人家も疎ら、特に寒稽古に通う早朝や夕刻など、淋しくて、心細い限りでしたが、今では、びっしりと家並み続きで、立派な町並みに変貌して居たのも、驚きでした。更に、校門前の桜並木も当時は何とも、が細く弱々しかったのが、今では、うっ蒼とした大樹となつて居るのを、眼の辺りして、改めて六十五年の歳月を実感し、只々感慨無量でした。

本校では「OBによる進路講演会」や「卒業生との懇談会」を行って来ます。多くの同窓生にお世話になりながらキャリア教育を進めております。三年生は本格的な受験のスタートをきりました。二年生も学年旅行を終えりと学習モードに入ります。一年生はようやく学習とは何かについて考え始めました。生徒一人一人の夢実現のため本校で脳を鍛え社会に羽ばたかせたいと考えております。地域に出ると随分方から暖かい声がかかります。それぞれのお立場で、母校を見守られていることを感じます。とてもありがたいことです。母校のため、今後とも同窓会各位の誰かのご支援ご協力をお願い申し上げます。

更に、参加九名のそれぞれが、生き抜いて来た戦中戦後の波瀾の人生を語り合い、又、参加できなかった旧友達の消息とメッセージを紹介する等、延々七時間に亘つても、思い出話は語り尽くせなかつた。今日、落日迫る人生の中で、旧友達の、常に変わらぬ温かさ、熱い、老後の身も心も洗われる様な、思い出の同窓会となりました。心ならずも、今回の同窓会に参加できなかった旧友からも、「この次は何時やるのだ」と等と半ば、希望の声も上がつて居る。(旧制十七年卒 渡邊 一記)



### 学年同窓会

## 「23・24・25年卒同窓会」



時折り開催していた学年同窓会が毎年開かれるようになってもう十年以上になる。そして今年も春の大型連休明けの五月館林市の「ユース・ホテル」で開催された。参加者四十名、当日は好天だが風が強くと交通機関の遅れや長年使用していた会場が変更になり少々心配もあったが定刻にはほぼ全員が集合できた。

記念写真の撮影のあと懇親会に入ったが一年ぶりの会合なので予約の二時間前を大巾に越えても話題が盡きず、校歌斉唱のあと次回平成二十年の予定を確認し合い散会した。

私達の学年は卒業年度が三回ある。太平洋戦争末期の昭和十九年入学だがその時は中学は四年制だった。終戦後の改正で四年卒業でも長く、五年でもよかった。そし



25年卒 小林新内(記)

新たに新制高校の設置により六年間在学したのもいる。そんなわけで昭和二十三、二十四、二十五年三月、最終的には高校第二回卒業生となった。物心付いての四十六年の結びつきは固く話題の盡きないのも当然だろう。たゞ残念なことは今年になってからでも四人の物故者があった。懇親前に全ての物故者に黙とうを捧げてご冥福を祈ったが数えぬでは高寿とはいえないがまだまだ元気な大勢の同級生と物故者の分まで頑張ろうと誓った。

## 37年卒同窓会

私達、昭和三十六年度普通科三年A組同級生(四十八名)は、卒業以来約五年を自給にクラス会を開催して来ましたが、今回は前回の平成十四年より五年に当たると同時に、昨年の秋の教職で教育功勞により、「瑞宝小授章」の受賞の栄に浴された。クラス担任だった恩師由良先生と教職祝賀会も兼ねて賑やかに開催されました。

当日は、はるばる九州や京都からも駆けつけた人もあって、二十四名の出席者が集まりました。

先生は、由良先生と副担任の内田幸晴先生、里見あい子(旧姓山田)先生の三名が出席されました。今回は卒業以来初めてという参加者

もあって、会場を二次会に移して夜遅くまで旧交を温めあいました。定年を迎えた人や、現役で頑張っている人と様々な人が多く、互いの励ましになりました。

吉橋を引かれた由良先生は、昔と変わらぬお元気で、酒量も減った私達よりも若々しく、心強いがざりでした。次回からは、もう少し短い間隔で開催したいという希望も多く、それまで健康に気をつけようといひ合せて、名残を惜しまながら散会しました。

さて、今年、館林高校同窓会の代表幹事の職務が廻って来ましたが、拒むことも、逃げ出すことも許されぬ役割です。高校からは正式な委任状が届き、最初はとまどいながらも、できるだけ多くの出席者をつのり、代表幹事として、非力ながら同窓会を盛り上げたいと思えました。

## 初代会代表幹事学年が準備の為に同窓会開催

館林高校を卒業して、三十有余年が過ぎました。昭和四十九年三月、世間は不況の真っ只中にあり、私たちは様々な思いを胸に出立して行きました。そして、各々の道を歩み、幸いにして今日に致っております。

さて、今年、館林高校同窓会の代表幹事の職務が廻って来ましたが、拒むことも、逃げ出すことも許されぬ役割です。高校からは正式な委任状が届き、最初はとまどいながらも、できるだけ多くの出席者をつのり、代表幹事として、非力ながら同窓会を盛り上げたいと思えました。

また最初に脳裏に浮かんだのは、毎年の懇親の了解、つまり、代表幹事の学年は、同窓会の幾つかの役割りを分担するために、十数名の出席者を確保しなければならぬということでした。はたして、そんな人数を確保できるのか。現状では不可能なことは解っていました。学年幹事の滝沢、美吉、私の三人で相談し、ひとつの結論に到りま

した。十数名の出席者をつのり、考えられる方法は、一つしかありません。それは、十一月の同窓会の前に、四十九年卒の同窓会をやるという結論でした。その場で、十一月の同窓会出席を呼びかけようという事案です。

その結論に致るには理由がありました。常々、同級生と会うと(飲食する)、同窓会の話が出たのです。しかし、何か説得力のある理由がなければ、数人の役員を選ぶのさえ困難です。そこで十一月の館林高校同窓会、代表幹事の役割の履行を理由にしようという考えです。他に、適当な理由は何も浮かんで来ませんでした。

そして、館林高校同窓会O日会(非松会)から連絡があれば、必ず末席を汚すようなことをやっています。他の同級生に役割をおまかせし、その数人の同級生にもおまかせしました。さらに、三年の時の、A組からG組までの各クラスの代表も選任し、クラス毎の呼びかけをしてもいいました。どうにか八月の同窓会、執行役員も決まり、動き始めました。

同窓会の準備会が、二月三日、四月二十八日、七月二十一日の三回、開かれ、具体的な内容が決定されていきました。そして、平成十九年八月十五日、市内某所において、群馬県立館林高等学校昭和四十九年卒業、同窓会が、恩師三名の御出席のもと、同窓会、多数の出席の中、無事に開催されました。

出席者全員、及び同窓会事務局、そして執行役員、協力、尽力の賜物です。深く感謝したいと思います。

ともかく、私は次のことだけは言いたいのです。八月の、あの、我々の同窓会、大成功だった、と。

最後に、館林高等学校のますますの発展と館林高校同窓会の隆盛を祈念したいと思います。(49年卒 風間敏志(記))

同窓会、多数の出席の中、無事に開催されました。

出席者全員、及び同窓会事務局、そして執行役員、協力、尽力の賜物です。深く感謝したいと思います。

ともかく、私は次のことだけは言いたいのです。八月の、あの、我々の同窓会、大成功だった、と。

最後に、館林高等学校のますますの発展と館林高校同窓会の隆盛を祈念したいと思います。(49年卒 風間敏志(記))

同窓会、多数の出席の中、無事に開催されました。

出席者全員、及び同窓会事務局、そして執行役員、協力、尽力の賜物です。深く感謝したいと思います。

ともかく、私は次のことだけは言いたいのです。八月の、あの、我々の同窓会、大成功だった、と。

最後に、館林高等学校のますますの発展と館林高校同窓会の隆盛を祈念したいと思います。(49年卒 風間敏志(記))

同窓会、多数の出席の中、無事に開催されました。

出席者全員、及び同窓会事務局、そして執行役員、協力、尽力の賜物です。深く感謝したいと思います。

ともかく、私は次のことだけは言いたいのです。八月の、あの、我々の同窓会、大成功だった、と。

最後に、館林高等学校のますますの発展と館林高校同窓会の隆盛を祈念したいと思います。(49年卒 風間敏志(記))

<p>支部長 東京同窓会 鈴木 健男(二十三年卒) 板倉 荻野 次雄(二十九年卒) 明和 小牟 進(三十一年卒) 千代田 武井 肇良(三十年卒) 前橋町 関谷 智昭(二十二年卒) 館林会 河内 初元(三十年卒) 大田市 小林 廣吉(三十七年卒)</p>		<p>書記 野村 博久(四十三年卒) 訂田 双司(母校教諭) 藤倉 和夫(四十四年卒) 平田 慈之(母校事務長) 尾形 賢男(二十年卒) 橋本 清(四十一年卒) 廣部 己行(四十七年卒)</p>		<p>副会長 小嶋 泰男(二十六年卒) 宇治川福司(二十七年卒) 山崎 浩志(二十八年卒) 山川 博(二十九年卒) 山崎 穂(三十二年卒) 大塚 幸雄(三十五年卒) 河本 榮一(三十六年卒) 前山 秀樹(三十七年卒) 小林 廣吉(三十七年卒) 大岡 允雄(三十八年卒) 山岸 勝美(三十八年卒) 遠藤 和昭(四十二年卒) 大谷 隆二(母校全日教諭) 齊藤 敏明(母校臨時教諭)</p>		<p>幹事 谷津 義男(二十八年卒) 矢口 昇(二十五年卒) 安藤岡一雄(四十一年卒) 松本 耕尚(三十八年卒) 伊藤 收(母校校長) 岩瀬 英市(二十五年卒) 小嶋 泰男(二十六年卒) 宇治川福司(二十七年卒) 山崎 浩志(二十八年卒) 山川 博(二十九年卒) 山崎 穂(三十二年卒) 大塚 幸雄(三十五年卒) 河本 榮一(三十六年卒) 前山 秀樹(三十七年卒) 小林 廣吉(三十七年卒) 大岡 允雄(三十八年卒) 山岸 勝美(三十八年卒) 遠藤 和昭(四十二年卒) 大谷 隆二(母校全日教諭) 齊藤 敏明(母校臨時教諭)</p>	
--	--	---	--	--	--	--	--

## 平成十九年 同窓会本部役員



### 支部活動

#### 初!! 館高50km 強歩大会に支部参加

板倉支部長 荻野次雄

昨年の同窓会報にて、五十km強歩に参加募集の話があった。その話を受けて役員会で板倉支部でも参加してみたいとの声が上ががり、今年一月二七日開催された支部総会で五十km強歩参加を決定した。

参加に向けた会合で、基本的方針について話し合いがなされた。そこで決定したことは、A、原則として、走らないで歩くこと。B、1kmを十分で歩くこと。C、中継所ごとにリレーすること。D、区間は二人で歩くこと。E、アシスタントがあった時の対策として、走路の近くをサポーターの車を走らせる。F、全ての連絡は携帯電話で行い、メインの車を設定する。G、最終歩行者は役員の中で六〇歳代の人とする。H、ゴールは都合のつく人全員で行う。等々であった。それぞれ歩ける時間の調整、中継所までの送り迎え等も問題になったが、送迎は二



人にまかせることになった。

歩行中の感想等を次に記す。A、二人ではなく、一人だと疲れた時助まらざる事が出来、よかった。B、第一歩行者は最後に出発して、生徒を抜いてはいけなくてスピードを調整していたが、途中で、予定時間までに到着しないことが分かりスピードを上げた。C、部長区間を走った人は学校関係者で、卒業生の尻を叩きながら走ったため、時間を大幅に短縮することができた。D、最終歩行者は、まだ、現役のスポーツマンなのでスピードが速く、ゴールに間に合わない者もできてしまった。E、サポーターも土手の近くを走ろうとして、何度も行き止まりに会い、バックしたこともあった。

このようなことで、予定より四十五分早く、午後二時四十五分に、一七三番目に到着することができた。

その日は、館林市内で反省会が催された。疲れたけど楽しかった。来年はもっと多くの人を誘い参加しようとなり、大いに盛り上がった。

#### 館高東京同窓会

会長 鈴木敏男

館高東京同窓会も昨年10月創立25周年を迎えた。記念行事として同窓の元

農水大臣谷津義男氏の政界の現状についての講演があり、総会を含めて多数の来賓ご出席の下に上野精養軒で盛大に行われた。

この模様は上毛新聞の館林ニュースジャトルにも掲載された。

会員の参加も60数名となる333頁に及び記念誌も刊行され、年会費を払っている会員には全員配布、ご出席の来賓の方々にも天女進呈した。

25年の歴史からその好余曲折、種々の行事、活動等の思い出から、将来への会の課題、抱負、母校や故郷への思い、母校への協力の仕方、等々語り合う時間を作り、特に若い同窓の活躍の会への参加協力等の具体的な手立て等も活発に議論された。

一方アンケートも各会員に配布し、職員等も記念誌に掲載した。



同窓会、役員及び本校OB、企業の広報も呼ばれたが期待した程集まらず、他にも知人、他校の同窓生、関係者など参加した。この費用を賄うには苦勞したが、その後の会員の努力でどうにか埋め合わせる事が出来た。

特に県内高校の東京同窓会（女子高も含む）との交流も更に深まり、目つ県内各高校同窓会出身が中心になっている群馬県人会連合会や、上毛クラブとの交流も頻りに行われる様になり、ゴルフの会、観戦、納涼、グルメの会等も含め更なる会の内容の充実と、その存在価値が会員相互認識し合える様

#### 人生のオアシス同窓会

明和支部 小平 進

明和町支部は平成12年に結成し、7年が経過しました。昨年役員改選を行いました。

本年1月に、支部結成以来ご尽力をいただいた旧役員の方々、新たに役員で活躍して頂く方々を交え、懇親会を開きました。

その懇親会の中で、明和町支部の発定当時の思い出話や、懐かしい館林高校時代の話に花が咲きました。皆さんの話のなかで、同窓会は大変不思議な力があり、何となく自分自身の生活に潤いを与える場のような感じがします。

また同窓会は、全く違った背徳の人々が同席し、不思議と違和感がありません。唯一の共通点は同じ場所、青春時代を過ごしたことです。

このことが自分自身の人生の宝物にも思えるのです。

そして何となくまとまり落ちつくものです。一見役に立たないように思えるが、自分の人生に大変意義のあることに気がつきます。同窓会とはこんな思いがするものではないでしょうか。

しかし何となくとも最大の関心事は母校の行く末であり、これからの発展が何よりも期待されます。

その為にも同窓生の社会での活躍こそが、母校への発展に大きく影響するのではないかと思いました。

例え微力でも母校の発展、同窓生の幸福のためにも、努力を続け、母校のPR、応援もしたいと思っております。魅力ある支部同窓会づくりをいらいと苦慮しています。何か良いお知恵がございましたら是非ご教示いただき

#### 邑楽町支部の 本年度の活動状況

邑楽町支部会長 関谷智昭

邑楽町支部の総会は毎年五月に行っており本年度は五月二十八日（土）前同回様「仲家」邑楽店で若い会員も参加され大勢の会員で盛大に開催されました。若葉同窓会長、伊藤学校長、郡内支部長、東京支部の副支部長、そして、ご多忙中の谷津国会議員がご出席下さいました。四月に行われた町議会議員選挙で会員の田部井健二さんと小沢泰治さんが出席され上位当選に盛大な祝賀をうけました。今後の町のスポーツ文化振興に大いに活躍されることを願っています。今後の会員増強としては、六月六日に城山カントリー倶楽部で第六回懇親ゴルフ会、更に同会場

で第七回が十一月に行われます。又同郷将棋大会を今年から行う予定です。これからも会員相互の親睦を深めるようつとめてゆきます。

#### 千代田支部の活動状況

千代田支部長 武井章良

千代田支部では年に一度、秋に総会を行っています。それに合わせてゴルフ及びランドゴルフを行い、会員相互の親睦を図っています。昨年の例を挙げると、総会は新田家（赤岩）で行い、参加人数は約二十名でした。

ゴルフは上武ゴルフ場で行い、十三名の参加者で和気藹々のうちに終了しました。また、ランドゴルフは東部運動公園にて行い、参加人数は八名でした。お互い同窓生との絆が十分に深まったと思います。

一般に参加者の高齢化が懸念されて





恩 師 登 場

館林高校時代の思い出

尾形 哲男 先生



昭和47年から58年まで11年全日制、後の2年間は定時制と13年間に亘って朝はレスリングの朝練で一番早く登校、毎日放課後は練習を見てから誰も居ないような職員室に戻って、翌日の教員の指導の準備や、レスリング関係の事務局の仕事で8時近くまで毎日頑張ってきた。特に58年の国体の競技運営の責任者となつてから57年からの2年間

思い出

恩田 保隆先生



伝統ある館林高校での若かつた十五年間は教員生活の中で最も充実した毎日であった。担任や部活動を通して生徒と共に過ごしたことが、諸先生に接して指導を受けられたこと等忘れられることが出来ない。理科には経験豊富な先生が揃っていた。私は化学を主に担当したが、新しい科学技術の進歩が理科にも押し寄せ、毎日の教材研究が欠かせなかった。視聴

「想いおこせば」

坂村 孝 先生



昨年の六月末に古希を迎え、現役を引退して十年になります。一九五二年四月から三年間は高校生活に、六四から十一年間を母校に赴任して、後輩たちとの学習と部活動指導に専念致しました。教職員仲間というより諸先輩や恩師に恵まれ、私にとって毎日が楽しい勉強の環境でした。特に、部活動では高校時代に熱中していた、伝統ある陸上競技部の顧問を

守岡 五朗先生



懐かしい会報に書かせていただいた事を先ず會員、役員の方々に感謝いたします。一九六二年、見ず知らずのこの地に新卒新任ホヤホヤが赴任して(板倉分校を含め)二十年間も在職させていただきました。ですから本校は私の心の故郷、私の母校、先生は生徒諸君、先輩教師の皆さん。まだヨチヨチの私に「先生、一宮の教育研究会に全員の高校生が集まる、一緒に行動しよう」と誘ってくれたのは生徒会役員、以来生徒諸君

任され、部員には県内の競技会での上位成績を目指し、私にとっては成し得なかつた全国高校総体や国体にて、個々の種目に才能を秘めた選手を育成し出場させることが毎日の目標でした。七九年四月から「新入生歓迎の五〇km強歩大会」がスタートし、卒業生には思い出深い校内行事の一つかと思えますが、六一年度から六七年度まで開催された「館林音楽一周記念大会」(校外自治体)は、自転車による伴走と学年を問わない七地区対抗戦、やはり、PTAの全面的協力による、交通事情の許された時代の、あの頃の懐かしい砂利道での行事でした。

進学校としての母校の後輩諸君に、限りない文武両道達成なるをこ期待致します。坂村先生は、昭和19年4月からの昭和47年3月まで、同窓会顧問としてご指導いただきました。

や先輩教師に連れられ高校生集会・全国新聞連盟総会・原水禁世世界大会など様々な場で教育とその発展を学びました。(しかし、県の方針で二十年を超えたる者は配転、以来十八年、音楽にも戻して貰えず無念致す。関係休職、私が母校(都立千歳)の同窓会に初出席したのは、選別祝いを修学旅行先小豆島で、でした。(70/240・教師10参加)、開業、今年は五十年(母校は石原リストラで済済)、九月に、120名を目標に集まります。同窓会は若い頃出られなくても、心の故郷として(年寄りの願ひではなく)、生き続けるもの。毎朝メールに約り自慢、政治論議がゴチャゴチャ入って来ます。(最後に、同窓生でなくとも懇会の案内を替のようにいただけなければいけません。と思っています。) 皆様のお返事を、古希を前に、守岡先生は、昭和19年からの昭和47年まで、同窓会顧問としてご指導いただきました。

大泉支部館泉会

活動状況

館泉会会長 河内初光

今年、大泉町は町制施行50周年の記念すべき年ですが、当会も1963年(昭和38年)発定以来、多くの方々のお力添えを得て、益々充実さを増しております。町在住の同窓生は約1200名、館泉会入会者118名、早く会員を150名にしたいと思っております。今年、1月に総会・懇親会、会員名簿・会報9号発行、4月に第15回館泉オープンゴルフ大会、5月に本部同窓会ゴルフ参加、8月に合同役員会並びに納涼会、これから11月に本部同窓会総会参加、館泉ゴルフ会が予定されている。なお、板倉・太田・原業・千代田・明和の支部並びに東京同窓会の総会には参加させて頂いております。これからも皆で、元気に仲良くやって行きたいと思っておりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。





# O B 登 場

## 林住期

二十年卒 増田 甚平



近頃、五木寛之の「林住期」がよく読まれているようであるが、「林住期」というのは、インドの思想で、人生の第三段階、世間や家庭での役目を終え、自然の中で瞑想の生活に入る時期といわれている。古代インドでは、「四住期」という考え方が生まれ、人々の間に分かれた。紀元前二世紀から紀元一世紀のあたりのこととされている。

「学生期」、「家住期」、「林住期」、「遊行期」がそれである。「学生期」、「家住期」は人生の前半。そして、「林住期」、「遊行期」は人生の後半である。人生

## 先 輩

後輩 三十年卒 兵藤 三郎



私の高校生活は、当時としてはめずらしい、新しいスポーツ(レスリング競技)に始まりました。故正田文男先輩、故野村高先生の手導のもと、毎日毎日が練習の明け暮れで、勉強よりは、レスリングに専らになり、楽しい学生時代を送りました。昭和二十九年、三の丸公園(現在の文化会館)において第一回全国高等学校選手権大会が開催され、私も選手の一員として参加し、団体優勝をしました。この事が、私がレスリングに携わる要因になっていたのです。後にこの大会の記念碑が、文化会館の隣に建立しました。

## 同窓会館の思い出

二十五年卒 多田 一雄



私等の同窓会館は、昭和八年旧多々良村浜に開設された館林鶴馬場本館で昭和十三年館林特設飛行場が設置され廃止となり、昭和十五年同窓会館が資金を集め購入し本校地内に建築したものである。太平洋戦争末期、少年飛行兵の宿泊場となっていた。

戦後新制高校発足と同時にクラブ活動も始まった。二十三年の名古屋高校総体の陸上競技に小林、始沢、毛塚出場、福岡国体に小林出場。又二十四年県選手権大会で毛塚四、二百米一位、始沢内壘一位、四百米リレー毛塚長井竜井多田一位、

## 群馬県総合表彰を受ける その基礎は館林高校時代

三十年商卒 田口 四郎



知らずも教育文化功労賞(体操の普及発展に貢献)を去る5月受賞させて頂きました。理由は体操関係の役員を兼り、全国と20年間活動されたこと、並びに、国体選手を館林高校関係で延べ38名、桐生関係で53名合計91名の選手育成に功があったことのことのようであり、この成果はもとより私一人の力で成し遂げたものではありません。多くの関係者と協力共同して成し遂げたものであります。

館林高校関係では私が高校3年生の

## ●今年のコルフ●

### 「同窓会コルフコンペ」開催される

第7回館林高校同窓会コルフコンペが、5月10日(木)に板倉コルフ場で97名の参加者を得て開催されました。午後から雷鳴がとどろく天気となりましたが、その前に全員がプレーを終了。同級生、先輩後輩、みな和やかに観戦を深めながらも、真剣にラウンドしました。

その後のパーティーには、岩瀬同窓会長、伊藤校長も参加して、健闘をたたえながら、楽しい時間を過ごしました。

成績は、次の通りです。(敬称略)

- 優勝 高沢時雄 (太田)
  - 準優勝 中村貞夫 (邑楽)
  - 第三位 遠藤和昭 (館林)
  - 第四位 田部井清 (東京)
  - 第五位 近藤真義 (東京)
- ベスグロ 79  
中村貞夫 (邑楽)

## ●来年のコルフコンペに

### ご参加を

期日 平成二十年五月十四日(水)  
\*五月の第3週になりました。  
会場 板倉コルフ場  
どうぞお誘い合わせのうえ、地区役員、支部長までお申し込み下さい。

お問い合わせ先 同窓会事務局

照合三位、国体選手で毛塚百米一位、四百米リレー一位、東京国体出場など輝い成果をあげたのも同窓会館合宿練習の賜である。

合宿と云えば忘れてならないエピソードがある。学校の西風畑で、仲間が興味と食糧不足で一寸失敗した。畑の主人に見つかり先生に訴えられ、先生は主人の目の前で生徒を平手打ちにした。見るに見兼ねて「先生もういいよ」吉吉良き時代の出来事である。

最後に始沢君の活動を紹介しよう。平成十四年中国での第三回アジアベテランズ陸上競技選手権大会に於てハンマー投げ優勝(四番一位)投げ三位の成績をおげ第二回群馬県スポーツ優秀選手賞を授与された。老いて(失礼)益々盛んである。

多田一雄、社会福祉法人 館林台理事長  
人権擁護委員  
群馬県立総合支援学校校長  
館林福祉体育連盟協議会会長

時に始めて北海道開催の国体選手になりました。それまでは県大会に出場すれば高崎・前橋に負けてばかり。甚だおもしろくありませんでした。自分か体調を壊し、選手としての体障ができなくなつた分を後輩のみなさんに実現してもらおうと、指導に専念しました。その結果が上記の数になりました。

また、桐生へ行って地域体操を始め40年になりますが、現在でも週4回子供たちと奮闘しています。動けなくなるまで継続することでしょう。その基礎は館林高校時代にあったと深く心に刻んで、懐かしく松林を思い浮かべています。また、第8回で一年先輩の増山さんの写真を見るにつけバスケの天才だと思っていました。

三〇日には群馬・桐生両県体育協会合同大会、関東体育協会合同大会、全国体育協会合同大会、全国高等学校体育連盟合同大会、全国体育連盟合同大会、〇〇合同大会



# O B 登 場

## 半世紀後の先輩

三十四年卒 金子 良平



大学卒業後、しばらく民間企業で日本各地を転々とした。世の中は、高度経済成長時代。国民の投資意欲も旺盛で、当時のポーターズは、長年教員をしていた父をはるかに凌いだ。「お前は、まともな仕事をしているのか？」と母に言われたことを思い出す。

当時は、かなり学校が荒れていた時代である。無鉄砲な行動をする生徒に、教師も父兄も戦々恐々としていた。いろいろな事情があるにせよ、若さというには、度を越していた。

館林時代に野球部で鍛えられたことは、いつもの心の礎であった。なぜ、彼らのエネルギーが運動などに向けられなかったのか？そんな思いが議員になる決意をさせた。現在、市内の選別野球チームに所属している。館林卒業後40年、間もなく半世紀である。当時の先輩は、今も厳然たる先輩である。体の動きは年相応にダウンしているが、野球にかけた情熱と、シゴキは、高校時代以上である。

## 館林高校の思い出

四十一年卒 安楽岡 一雄



時の流れは実に早い。若い頃の記憶は、まだ先日のように鮮明なのに、卒業以来四十二年の歳月は確実に経っている。私も、すでに白髪交じりの初老の域に達してしまっただけで、高橋生時代を思い起こすと、遊び回りの破天荒な思い出ばかりが蘇ってくる。

一流大学を目指す一部の学生は別だが、受験戦争もそんなに白熱したものではなかった。クラブ活動は、先輩の勧めもあり井筒部に入った。放課後、講堂や松林の中

で免体練習に熱中したこと、世の中の不条理や矛盾に口角を飛ばし合ったこと、先輩のお供で名古屋や淡路島で開催された井筒大会に夜汽車で送られて行ったことなどが、つい昨日のことのように思い出される。といって、運動生では全くなく、興味が強かったので、よく指導の仲役に駆り出された。こんな学生でも、全編の巻頭を寄せ道かく指導していただいた懐の深い先生方への感謝の気持ちは今も変わらない。

暑い館林で 四十四年卒 海原 正治

8月11日、383度、私が風呂で胸鏡を覗き込んでいた状態ではありませぬ。当日の全国第2位になった館林市の最高気温です。35度以上の猛暑日も既に連続10日間を記録し、お盆中の晴天子候で、この記録も何日までも延びることが、厳しい現実を思いやられます。前日の8月10日も、37度で全国第2位。どうせなら、2位ではなくて全国第1位で、館林市の名前を全国に売り込め」と思うのは、役所勤めの

## 「高校時代を夢にみる」

三十六年卒 小幡 洋次郎



今年の一月で六十四才になりました。才を重ねるにつれて、若かりし頃の夢が夢に出てくるようになりました。館高で、レスリングをやろうと心に決めて入学しました。三年間、昼夜を通してレスリングの事ばかり考えて過ごしました。学業の成績が悪くなる一方の私を、担任の故内田昭洋先生は激励し続けてくれました。部長の故久保田利重先生の指導は本当に熱心でした。早朝練習の為、一般の生徒より一時間半も早めの起床で、又帰りの電車も六時過ぎで、先生と行き帰りを三年間共

性(さが)がしょつが。館林市役所に勤めて30数年、新たな「卒業」まで、間もなくとなった今、高校時代と同じような充実した時間が過ごせればと願うこの頃です。

高校時代の3年間には、「理科系」の学生を、歴史や経済、哲学などに関心を寄せる「文化系」に変えるほどの大きな影響を時として与えます。私も、多くの先輩・友人・先生方と語る中、学ぶことの意味を改めて考えさせられました。「現代学園のすすめ」(末川博他著)の学習なども記憶に鮮明です。

新たな卒業までの間、暑い館林市で基本を大切に、「誰の為に、何の為に」自然自覚しながら、現在ただ今やっつけていることに全力をあげ、もう少し頑張ってみようと思えます。

## ☆☆部活訪問☆☆

### 「硬式野球部」

8月炎天下の練習球場に埼玉・不動ヶ岡高との練習試合の取材が行った。久しぶりの白球をぶつすがすがしい高校球児を目の当たりにした。試合結果は14対8で勝、第2戦も4対3で勝った。秋に向けての新チームの山口慶典主将は「全員野球を心がけ一人ひとりが高い意識を持ち、少ないチャンスも確実にものにできるチームにしたい」と頼もしいかざりである。星野貴紀監督は「チーム一人ひとりが力を合わせて総合力で勝負。競ったゲームをものにできる粘り強さを身につけさせたい」と抱負を語った。

今年の夏の大会は、3回戦で校の旗を掲げた。4対5Xで惜敗。去年の夏は初戦が春の甲子園出場校の高崎高に3対2で勝ち優勝に進み4回戦で関学付高に7対9で負けたが、ベスト16入りした。この硬式野球部は、野球部OBの小幡泰男さんによれば、創部は学校創立と同じ大正10年という。戦後は野球部と同時期に部活はスタートしたもの。当時は物資難、ボールもバットもない。公式戦で使うボールも打つと中からオカクズのようなものが散り目に入った。木製のバットは打つとすぐに割れちゃうので竹を張り合わせたものを使ったりした。当時の野球を懐かしみながら語ってくれた。





# 館高Now

## 第三十回大成祭が開かれる

【期日】七月七日(土)、八日(日)

【テーマ】「男×極×祭」

館高に新たな風を巻き起こせ!



全生徒と教職員的一致協力により参加創造型の文化祭が盛大に行われ、二千四百名を上回る人たちが、催し物を楽しみました。

三年に一度の行事で、ほとんどの生徒は初めての経験にもかかわらず、クラス団体が斬新な発想や創造力で知恵をしぼって、高校生文化は何なのかをアピールしました。

大成祭当日午前、一般公開に先立ち、「オープニングセレモニー」が行われました。各クラス団体の企画紹介に続いて、生徒全員による「やるぞ宣言」で体育館は熱気に満ちあふれました。時代と共に、

高校生気質が変わっても、「大成」の名のもとに集う館高健児の心意気は健在でした。

企画準備の遅れが気になったこともありましたが、当日は生徒全員で削り上げてきたものが、校外の人達の関心を引き寄せ、多くの来場者を迎えることができたと思います。一度しか経験できない大成祭が、各生徒の青春の思い出となって、いつまでも心に残ることを願っています。

### 全教室に空調設備設置

これまで、学校における夏季の暑さ対策は遅れていました。かつては、窓をはずし、単パン姿になって、早く夏休みが来ることを待ち望みながら授業を受けた記憶があります。

近頃は、全国一暑いところで知られた当地ですが、6月末、各教室に待望の空調設備が設置されました。今年度、県内五つの進学校で生徒の学習環境の整備に、エアコン設置をPTA負担で行う事業です。今回の県の許可をもらうにあたって、県のすすめる地球温暖化対策等推進計画に本校PTA活動も協力してきました。その一環として、エコバッグを在校生の全家庭に配布し、四月には校舎南にケナフの植まきを行いました。

エアコンは、7月から9月までの課外授業で使用するものですが、これで、快適な環境のもと、生徒の学習成果が上がるのが期待されます。

### ●定時制だより

四月九日の入学式では一七名の新生を迎え、在校生は現在四九名です。とくに一年生(担任はO日佐藤教諭)は和気藹々と楽しく授業と部活動に取り組んでいます。卒業学年の四年生(担任はO日中津教諭)は進路を真剣に考え、その中で大学に一名進学が決まりました。

今年の定時制の目標は、生徒の将来構想を考えた懇切丁寧な生活指導と学習指導、広報の発行による情報交換と定時制の活性化に置いていきます。



将来構想では講演会を充実させ、開校記念講演会ではO日の谷田川敏幸氏(昭和五三年卒業)を迎え、「ターゲットライアル」を語る白田一樹氏(昭和三十九年卒業)を迎え、ライアルを光への道」と題して演説を聞き、キャリア教育セミナーでは元空軍歌劇団に所属していた内海典子氏を迎え、コミュニケーションについて学びました。十月には「裁判員制度と法教育」と題しての講演会を予定しています。

広報では「定時制職員室だより」「PTA新聞」「学校新聞」定時制の「灯」の発行を行い活性化に努めています。なお、新潟武蔵E.T.A会長が、長年の功績を認められ全国定時制六〇周年記念大会で文部科学大臣賞を受賞されたことを報告いたします。

〔教頭 齊藤敬明〕

## 進路状況

平成19年3月卒業生236名の進路状況は表1の通りです。大学進学者は国立大学61名、私立大学150名、短期大学1名で合計212名、専門学校進学者は7名となり進路決定率は93.6%と3年連続で9割を超えました。

表2に主な現役合格者数を掲載しました。芝浦工業大学、日本大学の合格者が30名を超え、群馬大学、獨協大学、東洋大学の合格者がそれに続いています。今年度は難関の東北大学に1名、筑波大学に3名、早稲田大学に4名合格しています。また、MARUICH(明治、青年、立教、中央、法政)クラスの大学にも数多く合格しており、内容的には過去最高の結果となりました。

これらは、生徒一人一人の努力はもちろん、学校、PTA、同窓会の諸先輩方が一致協力して生徒の進路実現に力を合わせた賜であると感じております。同窓会の皆様には今後とも館林高校の発展のために尽力いただきたくお願い申し上げます。

a~dは進学した人数

(表1)最近5ヶ年の進路状況(実人数)

年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
進路	入試	入試	入試	入試	入試
国公立大(a)	41	74	50	56	61
私立大(b)	176	135	155	150	150
短大(c)	2	0	1	1	1
大専校・留学(d)	0	0	2	0	2
各種・専門(e)	19	26	14	7	7
就職(f)	1	1	0	0	0
自営(g)	0	0	0	0	0
浪人(h)	38	34	13	16	15
合計(i)	277	270	235	230	236
進路決定率	86.3%	87.4%	94.5%	93.0%	93.6%
大学進学達成率	85.2%	86.0%	94.1%	92.8%	93.4%

\*海外の大学の国内分校は専門学校に分類、就職かつ進学した者は進学に分類  
進路決定率=(a+b+c+d+e+f+g)+i  
大学進学達成率=(a+b+c+d)+(i-e-f-g)

(表2)主な現役合格大学

国公立大学		私立大学	
東北大学	1	獨協大学	24
茨城大学	3	青山学院大学	5
筑波大学	3	芝浦工業大学	33
宇都宮大学	5	中央大学	9
群馬大学	21	東京理科大学	8
埼玉大学	5	東洋大学	21
千葉大学	1	日本大学	31
新潟大学	2	法政大学	15
信州大学	2	明治大学	14
前橋工科大学	4	立教大学	6
高崎経済大学	6	早稲田大学	4
首都大学東京	1	神奈川大学	12
	65名	など	518名



### 部活動状況

今年度の部活動では、前年度の総合十八位から大きく順位を上げ、九位という結果で近年では最高の順位であった。躍進の原動力になったのは、卓球部の五位、地適な努力が実を結んだソフトテニス部や硬式テニス部、バドミントン部、バレーボール部が上げられる。他にも常に上位に食い込んでいるサッカー部の存在も大きい。

朝は勉強、放課後は部活動。とメリハリを付けてながら、文武両道を実践しているところではあるが、他の上位チームから比べると、確実に練習時間は少なく、常にベスト8・4、もしくは関東を狙うにはまだまだ力不足の面もあるが、少ない練習量を練習の質で補いつつ、一歩ずつ上位を迫っていきたいと思う。

## 館高Now

他の生徒も効率よく時間を使い、限られた環境の中でベストを尽くし、自分自身が満足できる結果を残して欲しいと思う。

#### 【レスリング部】

今年度は現在五名の新入部員を加え、二年生五名、三年生七名の総勢十七名と県内一の部員数を確保することができました。また、新チームになり、学校対抗戦において新人大会は三年連続、県総体は三年連続二十六回目、インターハイは予選は四年連続三十七回目と三年連続三冠を達成することができました。

個人対抗戦でも、関東大会において六名の選手がベスト4に入り、インターハイに向けて勢いを増すことができたと思います。しかし、全国に目を向けるとインターハイ学校対抗戦では三年連続一回戦敗退、個人対抗戦でもなかなか全国チャンピオンを輩出できていません。

全国で勝てるチーム・選手を作ること、はもちろん、素晴らしい先輩方を手本にし、しっかりとした人間形成と幅広い視野、何事にも向かっていき、諦めない強い心を持ち、レスリングの楽しさや仲間の大切さを実感させてあげたいと思います。

#### 【ボート部】

今年度は、一年生一名、二年生三名、三年生一名の総勢五名と相変わらず部員不足悩みなが活動しています。そんな中で、三年生の菅原が、全日本三位、また高校の大会で日本一になり、昨年に続いて世界ジュニア選手権大会に日本代表として出場することになりました。二年生以下も徐々にではありますが、力を付けているので秋以降が大変楽しみです。これから、インターハイ、国体と大会も続きますが、部員一丸となって良い成績を残せるように頑張っていきたいと思っています。

#### 【水泳部】

今年度は新入生八名を受け入れ合計17名で活動しています。今期は6月末に関東高校選手権選手権大会が行われ、総勢7位に入賞し5名の関東大会出場を決めました。関東大会は7月末に東京都の辰巳国際水泳場で

行われ、リレーでは400mフリー・400mメドレーリレーに出場しました。インターハイの壁は厚く予選敗退でしたが、個人では轟博一郎が200mバタフライ、高橋純輔が200mフリー、藤崎和也が200mバタフライ、400m個人メドレーで出場し、藤崎が200mバタフライで佐賀県にて行われるインターハイ出場を決めました。1・2年生にとっては大会での良い経験になり、来月に期待が持てる大会でした。今後は、8月に県総体・新人大会と県内の大会が続きます。今後も応援よろしくお願いします。

#### 【陸上競技部】

今年度は2年生8名、1年生8名の計16名で活動しています。本年度の高校総体では予選敗退に終わり、残念ながら関東大会に出場した昨年以上の結果を残すことができませんでした。現在、関東大会や全国大会で活躍できる選手となることを目標に、日々、個々が高い意識を持ちながら、練習に取り組みんでいます。その結果として個々の記録も順調に伸び、シーズン後半の活躍が期待されます。

館林高校陸上競技部は幾多の優秀な競技者を輩出しており、地域や他校からの注目度も大変高いものです。伝統を継承し、更なる飛躍を目指し、部員一丸となって取り組んでいきますので、ご指導、ご支援の程、よろしくお願いたします。

#### 【新聞部】

創刊は昭和二十四年ですが、長らく休刊していた時期があり、平成七年に復刊しました。復刊号を一号とし、七月発行の新聞で2日8号を誇りました。「月一回以上の発行」を目標にがんばってまいりましたが、現在部員が3年生2名しかおらず、今後の発行に不安を感じています。しかし、新聞委員会の生徒も使いつつ、これから見やすい紙面を心がけて館高新聞を作っていきたいと思っています。今年も無代表として、全国総合文化祭朝陽大会

に出場いたします。

#### 【将棋部】

今年度は多くの新入部員があり、三年生二名、二年生十二名、一年生十一名の総勢二十五名となりました。活動は部室での対局を中心に行っているのですが、手狭となったため、一年生と二年生を曜日分けして活動しています。また、今年度は文化祭もあったので、ミーティングを頻りに行い、何とかやり遂げることができました。

大会成績も新入部員の加入により好調で、四幕では県大会の個人戦で一年生が三位となり、先日、全国大会に出場してきました。また、二年生二人も下位のリーグではあったのですが、三勝一敗の好成績を残せました。将棋部門においても一年生一人が三回戦まで進み、今後は楽しみになっています。

#### 【昇降部】

平成十八年九月十六日(土)に館林三の丸芸術ホールで、本校主催の第55回全国高等学校決勝昇降大会を開催いたしました。北海道から岡山まで、三十名という例年にない多数の昇士が参加して、盛大に開催できました。

本年も九月十五日(土)に同じ会場、昨年と全く同じ三十名の昇士の参加を得て、第56回大会を行います。さらには、いよいよ来年八月には、館林市文化会館を会場として第32回全国高等学校総合文化祭文芸部門、第54回文部科学大臣旗全国高等学校昇降大会が開催されます。決勝大会と併せて、御指導御支援をよろしくお願いたします。

#### ☆☆部活動訪問「硬式野球部」☆☆

今回から、上記の部のような、関東大会以上には出場できなかったものの、厳しい戦いに青春を燃焼させている部を訪問取材し、順次紹介する。第一回は硬式野球部。(以降は部名の都合で7頁へ)

### 高校総体などの結果報告

#### 【レスリング部】

団体戦 優勝(3年連続26回目)  
個人戦 関東大会10名出場

#### 【サッカー部】

ベスト8

#### 【バレーボール部】

ベスト16(3回戦)

#### 【ソフトテニス部】

ベスト8

#### 【山岳部】

ベスト8

#### 【軟式野球部】

1回戦

#### 【卓球部】

団体5位

#### 【ダブルス】

ダブルス ベスト16

#### 【バスケットボール部】

2回戦ベスト32

#### 【バドミントン部】

ベスト16

#### 【テニス部】

団体ベスト8

#### 【ダブルス】

ダブルスベスト8

#### 【空手道部】

ベスト16

#### 【陸上競技部】

予選

#### 【剣道部】

1回戦

#### 【ボート部】

諏訪湖レガッタ優勝

#### 【少年男子シングルスカル】

(少年男子シングルスカル)

#### 【水泳部】

関東予選総合7位

#### 【硬式野球部】

関東大会5名出場

#### 【ソフトテニス部】

インターハイ1名出場

#### 【硬式野球部】

夏季大会 3回戦(ベスト32)

\* 高校総体男子総合9位(昨年度18位)



# 今年の館高同窓会(総親睦会)は11月17日(土)

## ～誘い合ってお出かけください～

300名以上参加する大同窓会になって今年で9回目になります。同級生同士が旧交を温めるもよし、先輩後輩が励まし合うもよし、元気をもらって頑張ろうもよし、誘い合って集いましょう。

好評だった「同級生は同一席で」「総会の超スリム化」「同窓生はみんな平等」の精神などは継承して開催します。

代表幹事 昭和49年卒業生たち

【館林高校同窓会 総会・親睦会】



↑昨年の総会で「奮ってご参加下さい」と呼びかける今年の代表幹事たち

日時：平成19年11月17日(土) 午後5時

会場：ベルジューネ館林 (TEL.0276-72-2801)

◎参加券は総会幹事さん(下記)からお求めください。  
(参加券は5,000円、事務局にもあります。)

※4時30分から吹奏楽部の生徒による校歌等の演奏がありますので、お早めにお出かけください。

### 平成19年 総会幹事

43年卒	47年卒	46年卒	45年卒	44年卒	43年卒	42年卒	41年卒	40年卒	39年卒	38年卒	37年卒	36年卒	35年卒	34年卒	33年卒	32年卒	31年卒	30年卒	29年卒
大沢 孝	山岸 雅彦	早川 元久	津布久満高	山田 孝充	野村 博久	渡邊 和昭	神田 静一	大橋 薫	今成 勉男	白井 佳長	増田 秀雄	横田 常司	大塚 幸雄	山田 申	中島 大八	岡野 上	川生 宏	山口 慶巳	新井 耕一
原 康浩	井出 康弘	久保田進也	渡沢 智聖	井野口昇平	藤倉 道幸	岡岡 正	長野伴一郎	伊藤 徳三	小宮 雄雄	高橋 徹	和田 平明	鎌田 洋行	小林 究夫	塩田 勝	猪橋 博	石井 隆雄	西藤 一美	栗原 保明	長野 文雄
吉永 敏昭	金子 博	黒沢 信幸	中島 満	日比野正孝	早川 紀正	岩田 徳康	清水 理夫		初谷 充敏			宮内 敏夫	増山 豊臣	長谷川正博	手島 和雄			増山 芳弘	

### 話題あれこれ

#### 日本一になった館林

今年の夏は連日の猛暑につき、館林は8月15日に気温40.2度で日本一を記録し、一躍有名になった。さらに翌16日には40.3度と県内観測史上最高気温に並んだ。また、35度以上の猛暑日の日数は、館林市が21日、一方、今夏40.9度の国内歴代1位タイ記録を出したライバルの熊谷市は19日で館林の方が上回った。

館林市は、この暑さを逆手にとりてPRにと、日本一になった日などに、茂林寺で特産のうどんとアイスを振舞ったという。一方、暑氣払い対策は待ったなしと、安楽園市長の肝いりで役所内に「日本一暑いまちの涼化のための緑作戦」チームを発足させたという。成果を期待したい。

### 事務局より

●今年、学校行事の関係で同窓会の総会が11月17日(土)となりました。恒例の第2週ではありませんが、御理解の上、例年以上の御参加をお願いいたします。  
●次号の同窓会報を送付希望の方は、会費として千円を、郵便振替でお送り下さい。  
□座番 005220121725333  
□座名 群馬県立館林高等学校同窓会  
●今年度の事務局員は、  
町田、横山、野村、渡邊です。

### 編集後記

前号の特集記事「50キロ強歩大会」でOB参加を呼びかけたところ、板倉支部が参加され「疲れたけれど楽しかった。来年はもっと多くの人を誘い参加しよう。」と4面の支部報告にあった。最近我々の話題の中心が健康問題になるこの頃、参加のために行う事前練習ウォークなどは健康増進に目を向けるきっかけになるとも思う。来年はさらに多くの支部やグループの参加を呼びかけたい。

今号より、記事充実をめざして、訪問取材による都立紹介を始めた。ご意見を伺いたい。  
編集委員(山田、飯島、前山、山岸、渡邊、鈴木、藤倉、美部、町田)

発行 群馬県立館林高等学校同窓会  
〒374-040 群馬県館林市富士原町二丁目一  
番〇二五六(電話〇三〇七)  
http://www.educ-pref.gunma.jp/gakko/  
kou/areteyasu/